

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第290号

平成23年12月22日

練馬区立光が丘第八小学校

校長 鈴木 隆志

うさぎ 卯 年 から たつ 辰 年 へ

校長 鈴木 隆志

今年もあと数日です。今年の干支は「卯」、ウサギでした。「卯年」は、ウサギの穏やかな姿から「安全」を表すとも言われます。しかし、3月11日の東日本大震災と原発事故以来、安全に対する認識は大きく変わり、危機管理についての安全神話などどこにもないことを思い知らされました。本校でも「大規模地震が発生したときの初期対応」「防火管理」「学校への不審者侵入時の危機管理」それぞれの「危機管理マニュアル」を全面的に改訂し、安全教育全般の見直しを行いました。また、一斉配信メールシステムの構築や光八小地域防災連絡会との連携強化など、保護者・地域の皆様とも協働して、子供たちの安全を確保するための取り組みを進めてまいりました。

平成23年の「今年の漢字」に選ばれたのは、「絆」でした。東日本大震災被災者を応援する絆、なでしこジャパンをW杯優勝に導いた絆、人と人とがつながり合う「絆」を深く感じた一年でした。

私事で恐縮ですが、福島県いわき市久之浜は、私の義父の実家があったところです。3月11日の東日本大震災で津波とともに家は流されました。叔父、叔母は幸いにも逃げ出すことができ、一命を取り留めました。あの日、テレビのニュースでは久之浜一帯が火事になっていると伝えていました。しかし、映像も流れず、状況もはっきりしないままでした。安否が確認できたのは、何日か経ってからのことです。位牌だけを持ち出しての避難生活は二転三転し、今はようやく市内の仮設住宅で暮らしています。防潮林に変わる久之浜の沿岸部には、もう戻れません。

大震災から8ヶ月の11月、私は初めて被災地を訪ねました。津波の爪跡は深く深く残り、義父の実家もようやく瓦礫撤去作業が始まっていました。全く役に立たなかった防波堤沿いの町は家並みが失われ、国道からも海が見えるようになっていました。あの巨大津波を生んだ海が、静かな波の音を立てています。人影はほとんどなく、何もなくなった地肌に海風が吹き抜けていきます。津波と火事で町の大半が消失した中、形をとどめた建物の壁に、ボランティアグループの皆さんが描いた「復興の花」のペイントアートが咲いていました。この地に再び花を咲かせようというメッセージです。

久之浜の町の中に、8月末に行われた供養と復興のための花火大会のポスターが残っていました。そこには、『未来は、まけない』という力強い文字が記されています。でも、本当にそんなに力強い人たちがばかりなののでしょうか。本当はみんな、負けそうなくらいにくじけているのに…。

新年の干支は「壬辰（みずのえたつ・じんしん）」、たつ年です。「壬」の字は、海洋や大河の水を象徴するそうです。「壬」は「妊」の意味で、草木の内部に新しい種子が生まれた状態を表しているそうです。「辰」の字は「振るう」意味で、陽気が動き草木が伸長する状態を表しているそうです。「壬辰」が表す意味のように、一日も早い被災地・被災者の復旧・復興を願わずにはいられません。そのためにも、新しい年もより一層深い「絆」が大切です。

そして、光八小でも「絆」を大切にしたい教育を一層推し進めてまいります。光っ子たち同士の絆、子供と教師との絆、学校の職員同士の絆、保護者・地域と学校との絆、絆の一つ一つを大事にして、笑顔かがやく光っ子をみんなで育てていきます。

保護者の皆様、地域の皆様には、今年も大変お世話になりました。これまでのお礼を申し上げますとともに、新年も引き続き御協力・御支援を賜りますことをお願い申し上げます。皆様方にとっても、新しい年が健康で素晴らしい年でありますよう、お祈りしております。